

記者会見冒頭説明要旨

今回、関西の景気については、「持ち直しのペースが鈍化している」として、総括判断を据え置きました。個人消費や設備投資といった内需の堅調が引き続き全体の持ち直し基調を支えています。輸出や生産には弱さがみられています。以下、特徴的な動きについて説明します。

第一に、生産は、全体としては横ばい圏内ながら一部に弱さがみられています。品目別にみると、北米向け生産用機械が堅調を持続しているほか、汎用・業務用機械も高水準の受注残等を背景に底堅く推移しています。他方、電子部品・デバイスや化学製品は、中国経済減速の影響などから引き続き低調です。こうした中、一部メーカーの操業停止の影響から、輸送機械が足もと減少しています。なお、能登半島地震の当地生産面への影響については、現時点では限定的とみられますが、サプライチェーンを通じてラグを伴って現れる可能性もあり、引き続き注意深くみていきたいと思えます。

第二に、輸出は、引き続き弱めの動きとなっています。地域別にみると、NIEs向けについては、在庫調整の進捗や生成AI関連需要の増加から、電子部品に持ち直しの動きがみられるほか、米国向けについても、旺盛なインフラ投資やEV需要を背景とした建設機械等の生産用機械や化学製品などの堅調を主因に、高水準で推移しています。もっとも、中国向けは、スマートフォンやパソコン等の需要回復が遅れる中、電気機器や化学製品などが引き続き低調です。産業用ロボットなどの資本財も弱めの動きが続いています。欧州向けも、一般機械や電気機器を中心に、幅広い品目で弱い動きが続いています。

第三に、個人消費は、緩やかな増加を続けています。百貨店販売は、高額品や化粧品、春物衣料品などが堅調で、全体としても引き続き増加基調にあります。インバウンド客による免税売上も増加を続けています。サービス消費は、外食が、来店客数の改善が続く中で引き続き緩やかに増加しています。旅行取扱額は、能登半島地震に伴うキャンセルの動きが一部にみられるものの、全体としては持ち直し基調を維持しています。他方、自動車販売は、一部メーカーの出荷停止の影響などから弱めの動きとなっています。この間、財・サービスの価格上昇等に伴う「消費の二極化」の動きが、スーパーのほか家電販売や宿泊などの分野でも指摘されています。こうした点も含め、物価面から個人消費の基調に変化がもたらされることがないか、今春の賃上げ動向とあわせ、引き続き注視していきたいと思えます。

以上